



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/18 (月)				敬老の日			
9/19 (火)	+ 600	+ 11,900	+ 12,500	国庫短期証券発行・償還 (3M) 各種財政資金の支払い	CP等買入 ▲ 300 社債等買入 ▲ 1,200 国債補充供給 + 27,000		米：FOMC (20日まで) 欧：ユーロ圏CPI (8月)
9/20 (水)	+ 2,000	+ 39,000	+ 41,000	流動性供給 国庫短期証券発行・償還 (1Y) 国債大量償還			米：FOMC最終日、パウエル議長記者会見・声明と経済予測発表 欧：英CPI (8月)
9/21 (木)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				日：日銀金融政策決定会合 (22日まで)
9/22 (金)	+ 2,000	▲ 12,000	▲ 10,000	流動性供給			日：日銀金融政策決定会合、植田総裁会見 全国CPI (8月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、541兆4,400億円から始まった。9月13日には国債発行等により残高は539兆4,500億円まで減少した。その後国債買入オペや共通担保オペ等により残高は増加傾向となり、週末15日には547兆3,300億円 (速報) まで増加し越週となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.060%から始まった。8月積み期の日銀当座預金残高最終調整のため取り手の調達意欲が旺盛となり、14日の同金利は▲0.012%まで急上昇した。週末となる15日は、ON物が来積み期にかかるため取り手の調達意欲は減退し、同金利は▲0.043%(速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.060%~▲0.030%のレンジで出が見られた。

来週の主な予定は、国内では、21~22日に日銀の金融政策決定会合、22日に8月の全国消費者物価指数の公表などがある。

海外では、19~20日に米連邦公開市場委員会 (FOMC) が開かれる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<レポ>

足許GCは週初▲0.10%近辺から出合い始め、週央まで▲0.10%~▲0.09%で推移した。14日の取引では▲0.10%近辺から出合い始めたが、後場レートは低下し、▲0.15%~▲0.12%のレンジで取引された。3m短国の入札があった15日の取引でもレートの上昇には至らなかった。

SC取引は2年438~452回債、5年149~161回債、10年350~371回債、20年180~185回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,300億円で、週間償還額 (約1兆500億円) を上回った。発行市場は石油や小売り等の一部の業態で大型の発行が見られた他、幅広い業態で発行が行われ活況となった。発行残高は先週末時点の27兆1,871億円から14日時点で27兆192億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の償還額は約6,700億円となっている。発行市場は、営業日数が少ないものの5・10日絡みの発行から相応の発行が見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが中心となるも、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長短に応じてレート水準にばらつきが見られる展開を予想する。

<TDB>

15日の3M (1182回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1337% (前回債▲0.1363%)、平均落札利回り▲0.1406% (前回債▲0.1491%) となった。

来週は19日に1Y、21日に3Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。